

学校経営推進費 評価報告書（1年目）

標記について、下記のとおり提出します。

1. 事業計画の概要

実施課程名	全日制の課程
取り組む課題	生徒の希望する進路実現
評価指標	難関私立大学進学者数の増加
計画名	「アドバンス学習ルーム」

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	2 自らの将来を見据え、夢や希望を叶える進路を実現する (1) 進学実績の向上 ア 難関私立大、中堅私立大に毎年数十人が合格できるようなエリアの整備改編を行う。 イ 現在行われている土曜講習だけでなく、土曜自習室の開放を行う。 ウ 早い段階での進学意識の醸成につとめる。 ※難関8私大・中堅私立大の延べ合格者数（平成26年度生132名）を27年度に160名にする
事業目標	・難関私立大学8校の延べ合格者を上位4校で20名その他4校で50名をめざす。（平成27年春上位4校2名、その他4校24名） ・中堅私立大学10校の延べ合格者数を200名をめざす（平成25年春、150名）
整備した 設備・物品(数量)	自習・調べ学習・プレゼンを実践する環境整備 ・校内Wi-Fiを使ったE-Learningの構築と実践 ・Web環境の整った自学習スペースの確保
取組みの 主担・実施者	(取組みの主担・実施者) 経営委員会：教頭・首席(2)・指導教諭。 アドバンス委員会：首席と進路指導部が中心になってアドバンスエリアの授業を担当している教員。 難関私学文系受験に向けた生徒一人ひとりの到達状況を検証 授業評価委員会：指導教諭が中心となった教科代表が集まり、授業評価と学校教育自己診断の分析を実施。 また、指導教諭による自前の校内研修会を実施。
本年度の 取組内容	・短焦点プロジェクタを2台購入。当該教室での使用及び平素の授業や学校説明会で使用している。 ・無線LANの子機は教育用パソコンに接続し無線配信に対応できるように設定完了したが、無線配信による健康被害の可能性についてを問題視する職員が他の教員に働きかけるなど、運用面における校内のコンセンサスづくりに支障が出ており、活用段階には至っていない。 ・Moodleサーバーの設置工事を完了し、E-Learningで教材をアップロードするなど、活用に向けて準備中だが活用段階に入っていない。 ・液晶50インチパネル2機を視聴覚教室中央より後ろ両サイドに設置するとともに、今回設置したコントローラでプロジェクタと液晶パネルに映像を表示しながら講習等で使用。 ・equil（電子黒板システムと呼ぶほどのものではない）を2台購入。Windows版のアプリが活用できない状態（DLできない）が続いており、授業での活用に至っていない。
成果の検証方法 と評価指標	①学校教育自己診断で「宿題や課題が良く出される」平成26年61%⇒平成27年度70%へ。 「予習や復習が欠かせない」平成26年度33%⇒35%へ。 ②難関私立大学8校の延べ合格者を上位4校で10名その他4校で30名をめざす。 ③中堅私立大学10校の延べ合格者数を160名をめざす。
自己評価	※（記号説明）大きく上回った（◎）、上回った（○）、達成できず（△）、実施できず（×） ①学校教育自己診断で 「宿題や課題が良く出される」平成26年61%⇒平成27年度70%へ（平成27年度70%）。（○） 「予習や復習が欠かせない」平成26年度33%⇒35%へ（平成27年度34%）。（△） ②難関私立大学8校の延べ合格者を上位4校で10名その他4校で30名をめざす（平成27年度83名）。（◎） ③中堅私立大学10校の延べ合格者数を160名をめざす（平成27年度180名）。（◎）
次年度に向けて	・自習室としての活用がある程度定着したことが、飛躍的に進学実績を伸ばす結果につながった。次の段階は、Moodleサーバーに入っている教材を利用。単語及び英文法の5～10問程度の小テストを週3～4回与え、ICTを利用した教育の定着を計る。 ・学年とタイアップし、長期休暇時における「学習する空間」として利用を促し、引き続き利用者を増やす努力を行う。